

環境省

「環・環01 衛星による地球環境観測の強化」

平成27年度アクション・プランの実施状況及び
平成28年度アクション・プランの実施方針

いぶき (GOSAT) シリーズ

GOSAT : Greenhouse gases Observing SATellite

現在も運用中の温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)は、環境省、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び国立環境研究所(NIES)により共同で開発されている。

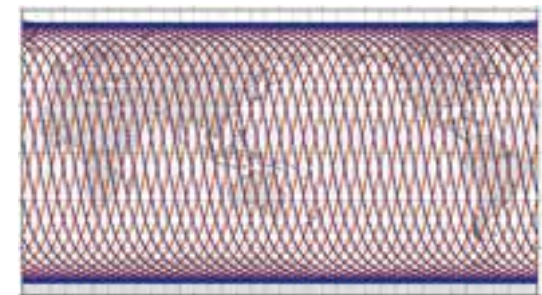
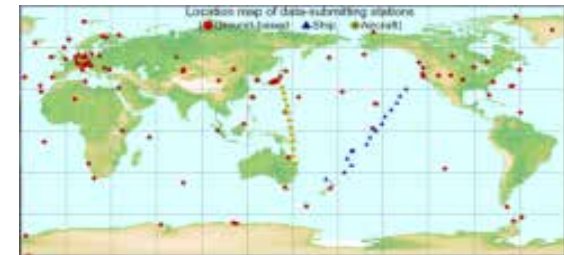
GOSATシリーズの目的

- ⦿ 気候変動に関する科学の発展への貢献
- ⦿ 気候変動政策への貢献(低炭素社会開発の推進)



GOSAT観測イメージ図
©JAXA

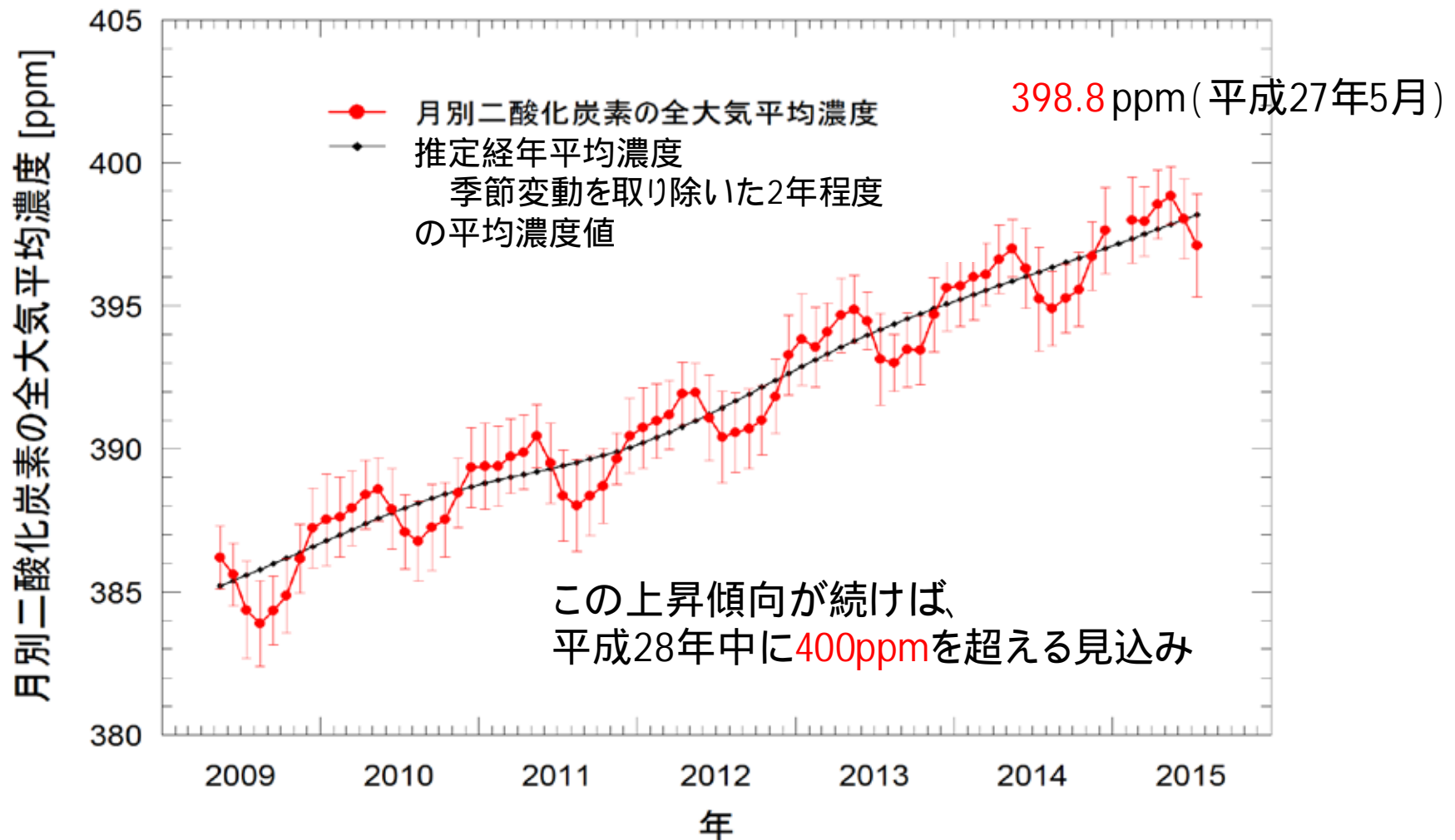
地上観測のみ
(約260点観測)



有効な観測点数
(約13,000点)

GOSATによる全球大気平均CO2濃度

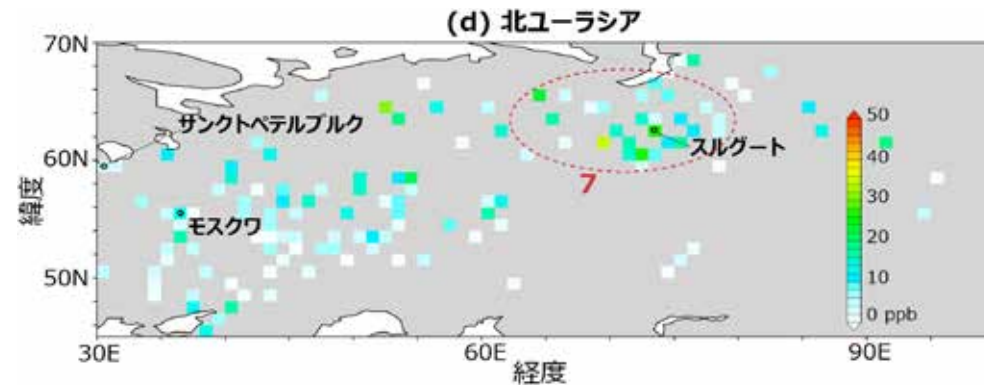
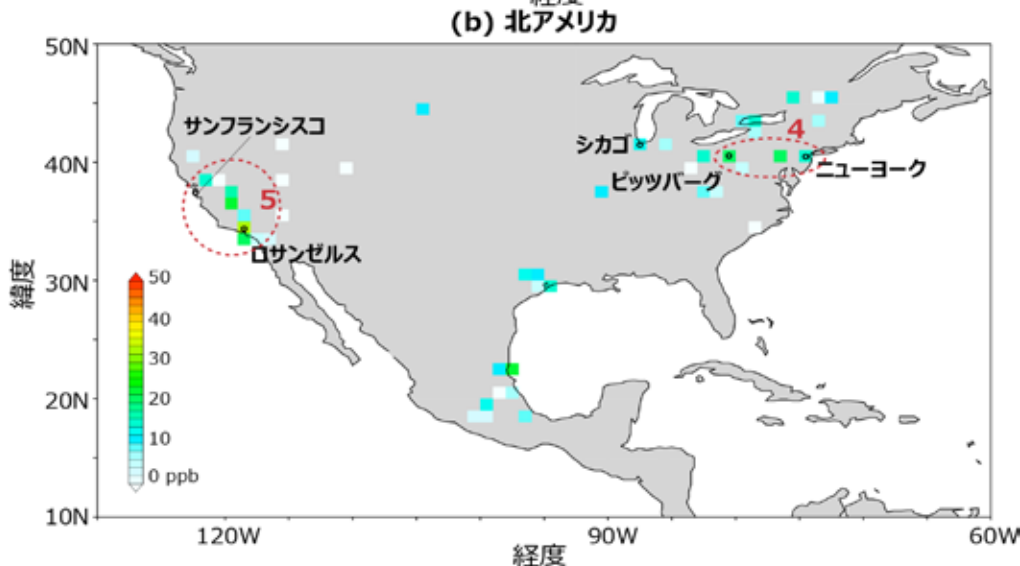
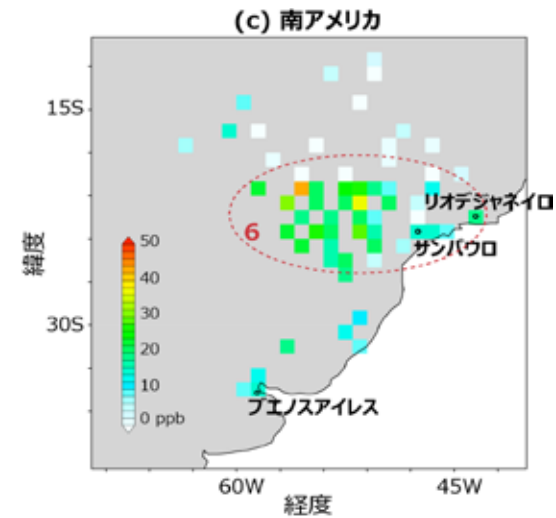
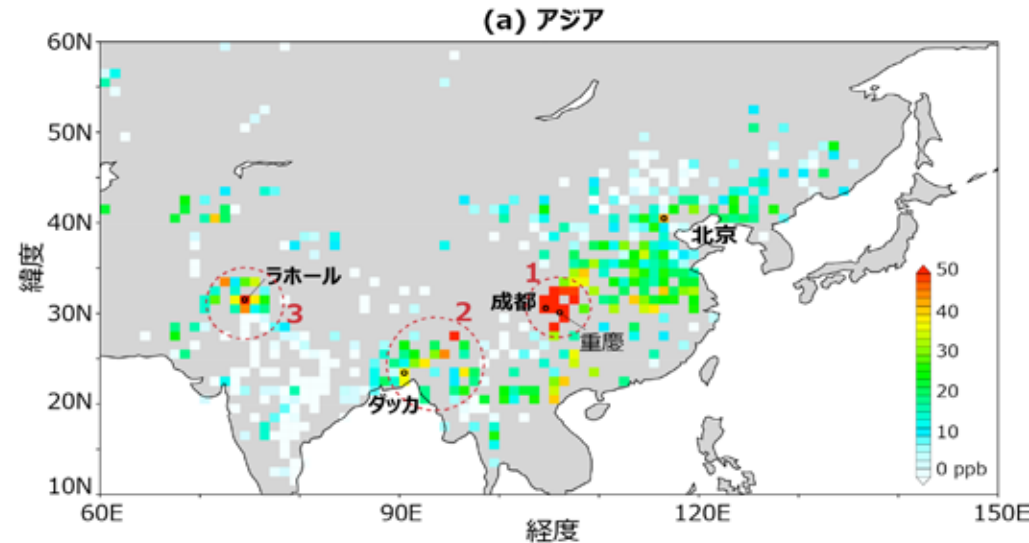
GOSATの観測データを用いて算出した地球全体(全大気)の月別平均CO2濃度。季節変動をしながら、年々上昇していることが明らかとなった。



平成27年11月16日(月)報道発表

人為起源メタン排出地域での高い濃度

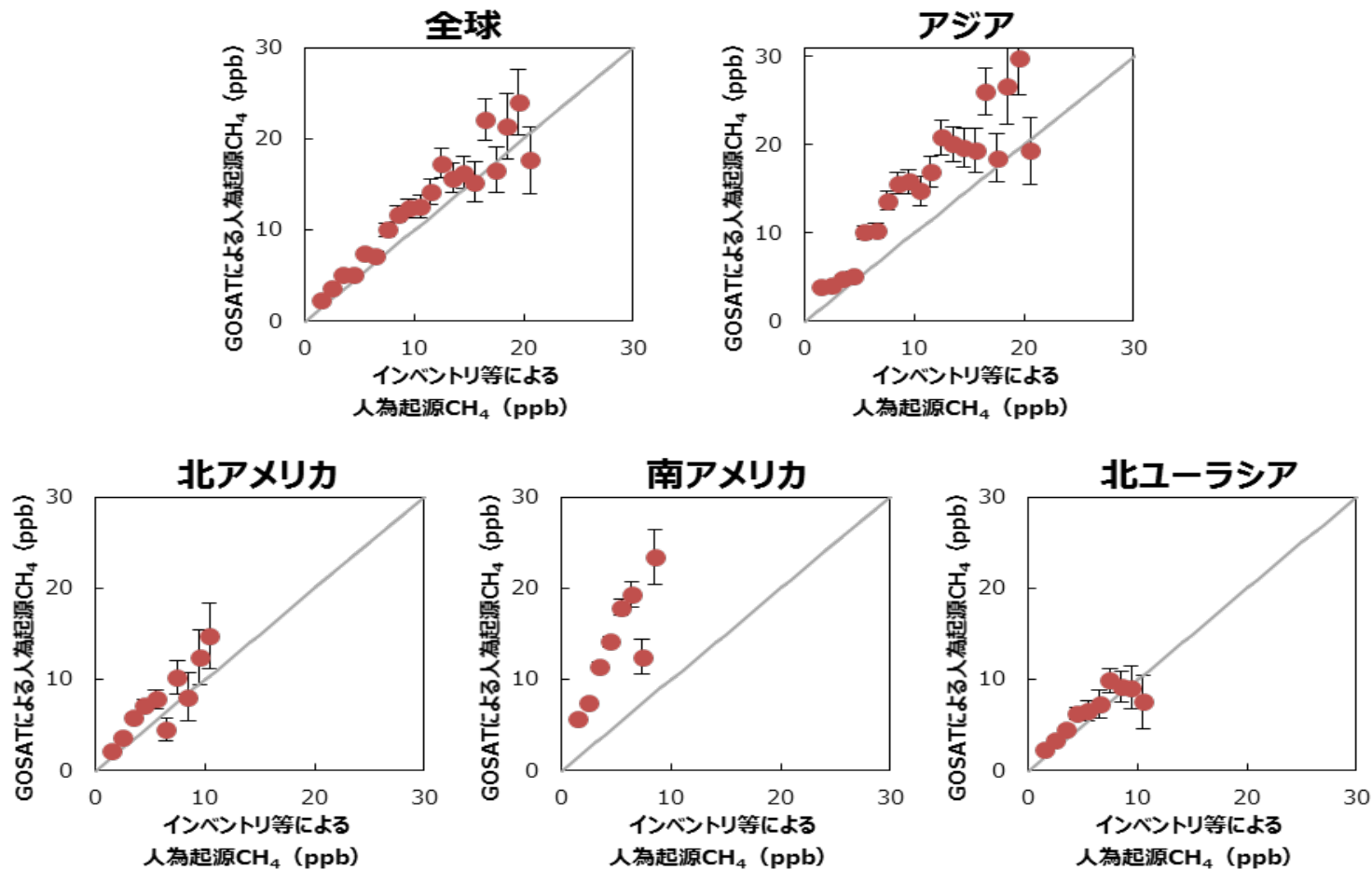
GOSAT観測データを解析し、人口密集地域・大規模な農業地域、天然ガス・石油の生産・精製地域の周辺でメタン濃度が高いことを明らかにした。



27年11月27日(金)報道発表

人為起源メタン濃度の観測結果

GOSAT観測データと、排出量インベントリのそれぞれから求めた人為起源メタン濃度に相関関係があることがわかり、GOSATデータの有用性と、衛星観測が排出量インベントリの監視・検証ツールとして有効利用出来る可能性を示した。



27年11月27日(金)報道発表